

女性と男性の恋愛観・結婚観に関する意識比較

三木 幹子, 植木 由香*

(2011年10月11日 受理)

Comparison of attitudes toward perceptions of love and marriage
between men and women

Motoko MIKI and Yuka UEKI*

Abstract

We carried out a survey of attitudes toward love and marriage targeting men and women, and people of various generations.

Three factors were extracted from the analysis of the results, namely “love dependence”, “conservative love perception” and “practical marriage perception”.

The following results emerged from a comparison of data from men and women as well as data from each generation.

- (1) In comparison to male university students who have a strong tendency to look for love which does not assume marriage will follow, female university students tend to have a perception of love with a view to marriage.
- (2) Women tend to be conservative in love where men have a perception of love that is positive and progressive.
- (3) Women are looking for economic strength in a man; as they get older, they tend to place more emphasis on this as a condition for marriage.
- (4) Because women in the latter half of their twenties approach the “ideal age for marriage” they have a stronger desire to get married.
- (5) Women have a logical and calculating approach to marriage, whereas men have an instinctive and genuine perception of love.

I はじめに

近年、日本において若い女性と男性の価値観の変化が社会問題となっている。特に恋愛観、

* 広島女学院大学 生活科学部生活デザイン・情報学科 実験実習助手

結婚観に関する変化は著しく、内閣府の調査¹⁾によると、20、30歳代の未婚男女の86%が結婚を望む一方、64%は交際相手がいないと回答しており、その中には「交際経験なし」と回答した人が26%含まれていた。また、出版社の調査²⁾によれば、25～39歳の男性の77%は恋人がいないと回答している。結婚に関しては、84%は結婚願望を持っており、94%の男性が、結婚後も妻に働いて欲しいと回答している。さらに、民放が男女1,000人を対象に行った調査結果³⁾では、「恋愛をするのが面倒」と回答した人が男性43%、女性47%にも上った。

このように、若者の意識が変化した背景には、長引く不況と社会情勢、教育体制、家族関係等の影響が考えられる。それら要因が若者に対して、人間関係によるストレスの増加、向上心・モチベーションの低下をもたらし、自分への自信を失わせた結果、恋愛観・結婚観を変化させたのではないだろうか。

著者等は前回の研究（三木、植木、2010）において、女子高校生と女子大学生を対象に結婚・恋愛に関する意識調査およびジェンダー意識に関するアンケート調査を行い、両者の恋愛観と結婚観の違い、およびジェンダー意識が恋愛観に与える影響について考察を行った。

本研究では、中学生、高校生、大学生、社会人、主婦といった様々な世代の男女を対象に、恋愛と結婚に関する意識調査を行い、性別や年代による恋愛観と結婚観の比較を行う。

Ⅱ 調査方法

1. 調査時期

2009年11月、および2010年11月

2. 調査対象

被験者は女性746名、男性509名、合計1,255名。有効回答数、女性718名、男性484名、合計1,202名である。女性および男性被験者の内訳を表1に示す。

3. 調査内容

質問紙法によるアンケート調査を実施した。

恋愛と結婚に関する理想、願望、価値観等に関する意識質問を20項目設定した。評価にはSD

1) <http://www.asahi.com/politics/jiji/JJT201105110144.html>, 「6割超に交際相手なし=20、30歳代の未婚男女—内閣府調査」2011年5月11日, 朝日新聞社

2) <http://xbrand.yahoo.co.jp/category/lifestyle/7034/1.html>, 「25～39歳の男性に大アンケート！結婚したがる男は本当に増えている?」, 『CREA』2011年8月号, p. 58

3) <http://www.sanspo.com/shakai/news/100823/sha1008230329002-n1.htm>, 2010年8月23日, ニッポン放送, 電通総研による調査

表1 被験者の内訳

カテゴリー	(人)	
	女性	男性
中学生	16	—
高校生	66	11
大学生	557	324
社会人 (20代前半)	37	86
社会人 (20代後半)	18	35
社会人 (30代以上)	13	28
主婦	11	—
計	718	484
合計	1,202	

法を用い、各項目について「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」の5段階で回答してもらった（評価に用いた質問項目は図1～図3，表2，表3参照）。

Ⅲ 結果・考察

1. 官能評価プロフィール

(1) 女性と男性の比較

全女性被験者および全男性被験者の各質問項目に対する評価平均を算出し、図1の官能評価プロフィールに示す。

「愛があれば貧乏生活も耐えられる」の項目は女性の方が評価が低く、男性と比較して生活水準をより重視しているといえる。「運命の赤い糸を信じている」については女性の方が評価値が高く、出会いに関して高い理想を持つ傾向が強い。「美人 or かっこよすぎる異性とは浮気が心配でつきあいたくない」「男と女は結婚まで性的関係を持つべきではない」の項目は、女性と比較して男性の方が「あまり思わない」と評価しており、貞操観念の低さが見受けられた。「経済力も男性の重要な魅力のひとつだと思う」の項目は、男女ともに評価が高い。このことから現代においても、家計を支えることは男性の役割と認識されており、女性は男性に経済力を期待し、男性も期待されていることを自覚しているといえる。

(2) 女性被験者のカテゴリー比較

女性被験者を、中学生、高校生、大学生、社会人（20代前半）、社会人（20代後半）、社会人（30代以上）、主婦の7カテゴリーに分け、評価平均を算出し、図2の官能評価プロフィールに示す。

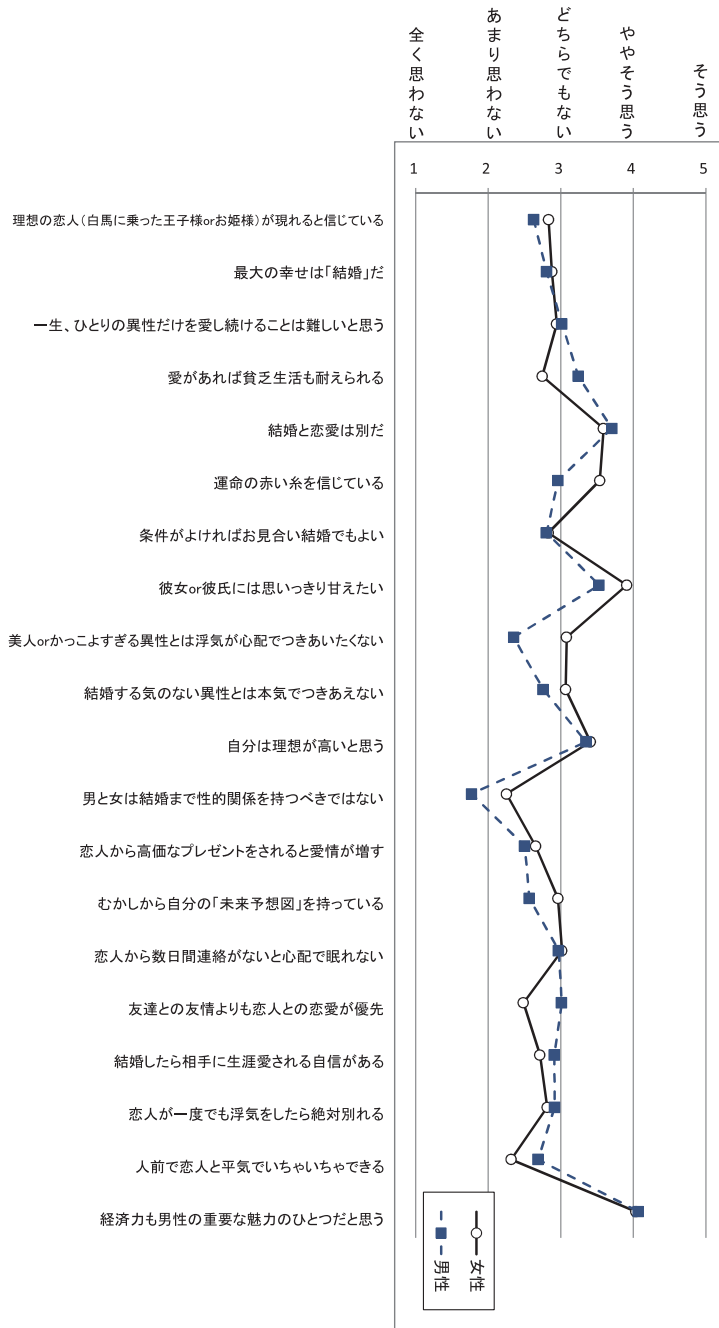


図1 官能評価プロフィール「恋愛・結婚意識」女性と男性の比較

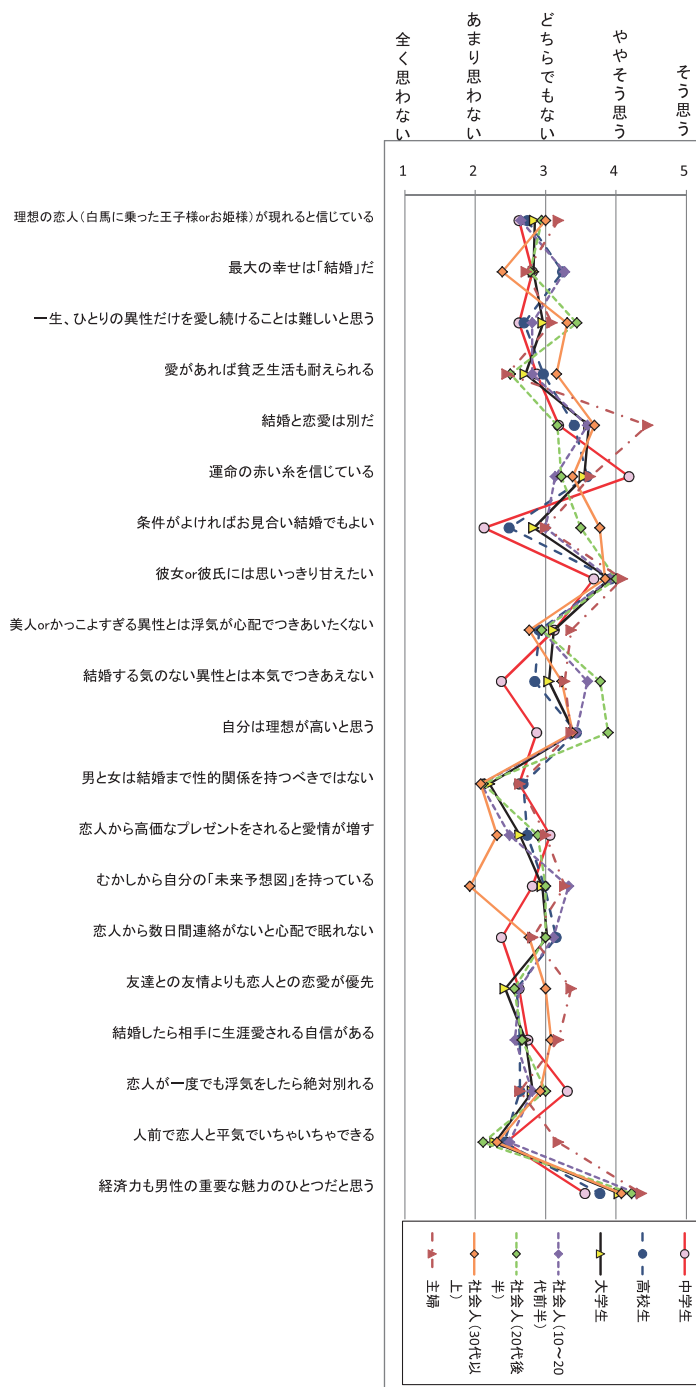


図2 官能評価プロフィール 「恋愛・結婚意識」女性の 카테고리別比較

「結婚と恋愛は別だ」の質問に対しては、主婦の評価値が他の被験者よりも高く、結婚生活の現実を体験した立場の意見が反映されていると思われる。中学生は、「運命の赤い糸を信じている」の評価が高く、「条件がよければお見合い結婚でもよい」の評価は最も低いことから、若年齢の女性特有の恋愛結婚への憧れを強く抱いているといえる。「条件がよければお見合い結婚でもよい」の項目については、中学生、高校生、大学生、社会人（20代後半）、社会人（30代以上）の順に評価が高くなっていることから、年齢が高くなるほど結婚の条件を重視する傾向が強くなると考えられる。「むかしから自分の「未来予想図」を持っている」は、社会人（30代以上）の評価のみが「あまり思わない」と低かったが、これは長期間就労し、キャリアを積んできた世代の女性に特徴的な意識ではないかと思われる。

(3) 男性被験者のカテゴリー比較

男性被験者を、高校生、大学生、社会人（20代前半）、社会人（20代後半）、社会人（30代以上）の5カテゴリーに分け、評価平均を算出し、図3の官能評価プロフィールに示す。

男性の場合、どのカテゴリーも近似した評価値を示しており、女性被験者ほど世代による違いは見られない。その中でも、「条件がよければお見合い結婚でもよい」の項目については、社会人（30代以上）の評価のみが高かった。年齢が高くなると結婚に条件を求める傾向が強くなるという、女性被験者との共通点が見られた。また「人前で恋人と平気でいちゃいちゃできる」は高校生の評価が最も低く、若年男性の恋愛への消極性が表れている。

2. 単相関係数

女性と男性の恋愛と結婚に関する意識調査に用いた20個の質問項目間における単相関係数を表2-1（女性被験者）、表2-2（男性被験者）に示す。検定の結果、相関が有意であった組合せに**($p < 1\%$) または*($p < 5\%$)を記している。この2つの表から、女性被験者と男性被験者の意識の違いを比較する。

「理想の恋人（白馬に乗った王子様 or お姫様）が現れると信じている」と他の項目との相関に注目すると、女性は「恋人から数日間連絡がないと心配で眠れない」「恋人が一度でも浮気をしたら絶対別れる」「人前で恋人と平気でいちゃいちゃできる」等との間に有意な相関がみられたが、男性はこれらの項目は有意ではなかった。交際相手の条件に妥協をしたくない女性は、男性に対して自分への忠誠心や愛情表現を求めているといえる。

「最大の幸せは「結婚」だ」の項目との相関に注目すると、女性は「条件がよければお見合い結婚でもよい」との間に負の相関が見られ、男性は「美人すぎる異性とは浮気が心配でつきあいたくない」との間に相関が見られた。結婚に幸せを求める人は、女性はお見合いではなく恋愛結婚を望んでおり、男性は相手の容姿よりも貞操観念の強さを重視していることがわかる。

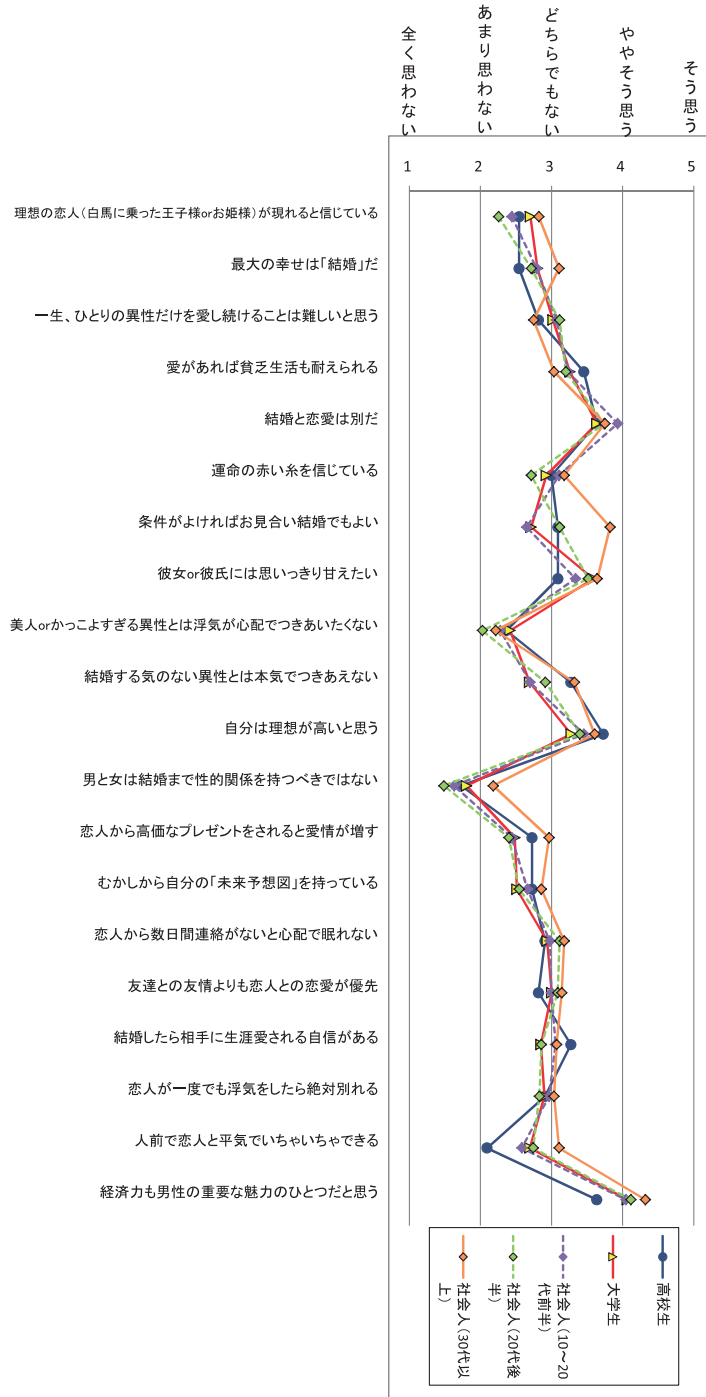


図3 官能評価プロフィール「恋愛・結婚意識」男性の 카테고리別比較

表2-2 単相関係数(男性)

単相	四	相	関係	係	数	(男	性)
理想の恋人(白馬に乗った王子様)とお見合いをする	1.000-	0.1972**	1.000-	0.1972**	1.000-	0.1972**	1.000-	1.000-
最大の幸せは結婚だ	0.105*	-0.1072*	-0.1738**	1.000-	0.105*	-0.1072*	-0.1738**	1.000-
一生ひとりの異性を愛し続けることは難しいと思う	-0.1061	-0.2093**	0.1754**	-0.1808**	1.000-	0.1754**	-0.1808**	1.000-
結婚と恋愛は別だ	0.4037**	0.2495**	-0.1521**	0.1268**	-0.0497	1.000-	0.1268**	-0.0497
運命の赤い糸を信じている	0.0083	-0.0572	0.0405	-0.0592	0.0810	0.0114	1.000-	0.0114
条件がよければお見合い結婚でもよい	0.1051*	0.2107**	-0.0297	0.0925*	-0.0438	0.2138**	0.0647	1.000-
彼女or彼氏には思いっきり甘えたい	0.0716	0.2089**	0.0051	0.1010*	-0.0431	0.0901*	-0.0334	0.636
結婚する前の異性は本気でつきあえばいい	0.0217	0.2531**	-0.1566**	0.0832	-0.2158**	0.1691**	-0.0074	0.684
自分は理想が高いと思う	0.1009*	0.0855	0.0312	0.1339**	0.1012*	-0.1520**	0.0471	1.000-
男と女は結婚まで性的関係を持つべきではない	0.1229**	0.1093*	-0.0882	0.0218	-0.0567	0.1205**	0.0139	-0.0323
恋人から高価なプレゼントをされると愛が湧く	0.1678**	0.1922**	0.0661	0.0637	-0.0516	0.1865**	0.0483	0.1939**
むかしから自分の「未来予想図」を持っている	0.2080**	0.3742**	-0.1669**	0.1033*	-0.0918*	0.1984**	0.0101	0.1339**
恋人から「未来予想図」を持っていてくれる	0.0534	0.2564**	-0.0737	0.1716**	-0.1035*	0.1857**	-0.0541	0.3701**
友達との友情よりも恋人との恋愛が優先される	0.0567	0.2233**	-0.1248**	0.1515**	-0.1086*	0.1055*	-0.0036	0.2342**
結婚したら相手に恋愛愛を注ぎたいと思う	0.1897**	0.2789**	-0.0906*	0.1980**	-0.0639	0.2044**	-0.0530	0.1457**
恋人が一度で浮気をしてしまったら絶対別れる	-0.0293	0.1325**	-0.0292	-0.0229	-0.1186*	0.0836	-0.0379	0.0036
人前で恋人と平気ですれ違いたいと思う	0.0083	0.1569**	-0.0348	0.0834	-0.0534	0.0013	0.0461	0.2136**
経済力も男性の重要な魅力のひとつだと思う	0.0407	0.0636	0.1261**	-0.1785**	0.1565**	0.0753	0.1519**	0.0533

無相関係数 **p < 1%, *p < 5%

「一生、ひとりの異性だけを愛し続けることは難しいと思う」との相関に注目すると、女性は「恋人から高価なプレゼントをされると愛情が増す」「恋人が一度でも浮気をしたら絶対別れる（マイナス＝別れない）」との間に相関が見られたのに対し、男性は「結婚する気のない異性とは本気でつきあえない（マイナス＝つきあえる）」「友達との友情よりも恋人との恋愛が優先（マイナス＝友情が優先）」との間に相関が見られた。このことから、永遠の愛を信じない人の場合、女性は恋人の誠実さよりも物質的な提供が愛情のバロメータであるのに対して、男性は男友達との付き合いを重視しており、本気で恋愛をする欲求が低いといえる。

「愛があれば貧乏生活も耐えられる」との相関に注目すると、女性のみ「自分は理想が高いと思う」との間に負の相関が見られた。いわゆる「お金よりも愛情」という考え方を持つ女性は、男性に高望みをしていないことを自覚しているといえる。

「結婚と恋愛は別だ」との相関に注目すると、女性は「運命の赤い糸を信じている（マイナス＝信じない）」「条件がよければお見合い結婚でもよい」「かっこよすぎる異性とは浮気が心配でつきあいたくない」との間に有意な相関が見られたが、男性にはみられなかった。結婚を特別なものとする女性は、相手の条件を重視しており、愛情の深さよりも、いかに安定した結婚生活が持続できるかということに重点を置いているようである。

「美人 or かっこよすぎる異性とは浮気が心配でつきあいたくない」との相関に注目すると、女性は「結婚したら相手に生涯愛される自信がある（マイナス＝自信がない）」との間に、男性は「経済力も男性の重要な魅力のひとつだと思う（マイナス＝思わない）」との間に相関が見られた。恋人の不誠実（浮気）を警戒する人の場合、女性は自分に愛される要素がないと思っており、男性は経済力以外の面で評価してもらいたいと思っている。理由は異なるが、男女ともに自分の本質に自信を持っていないことが要因といえる。

「むかしから自分の「未来予想図」を持っている」との相関に注目すると、女性は「人前で恋人と平気でいちゃいちゃできる」との間に、男性は「友達との友情よりも恋人との恋愛が優先」との間に相関が見られた。将来設計を思い描いている人の場合、女性は恋人への愛情表現が豊かであり、男性は外での付き合いよりも、恋人や家族を優先したいと考えていることから、結婚や家庭に対しての憧れの強さが伺える。

3. 因子分析

女性と男性の恋愛と結婚に対する意識の基本因子を抽出するために、20個の質問項目を変数に、被験者1,202名の全評価を観測回数として因子分析を行った。評価値は「全く思わない」から「そう思う」までを各1～5点として換算した。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子負荷量および各被験者の因子得点を求めた。

因子分析を行った結果、表3に示すような3因子が抽出された（第3因子は固有値がほぼ1.0であるため採用することにした）。因子負荷量より各因子の意味を検討した結果、第1因子は、「最大の幸せは「結婚」だ」「彼女 or 彼氏には思いっきり甘えたい」「恋人から数日間連絡がないと心配で眠れない」「結婚したら相手に生涯愛される自信がある」「人前で恋人と平気でいちゃいちゃできる」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“恋愛依存の因子”と解釈した。

第2因子は「運命の赤い糸を信じている」「美人 or かっこよすぎる異性とは浮気が心配でつきあいたくない」「結婚する気のない異性とは本気でつきあえない」「男と女は結婚まで性的関係を持つべきではない」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“保守的恋愛観の因子”と解釈した。

第3因子は、「一生、ひとりの異性だけを愛し続けることは難しいと思う」「愛があれば貧乏

表3 因子分析

因子負荷量：回転後（バリマックス法）

変数名	1 因子	2 因子	3 因子
	恋愛依存	保守的恋愛観	現実的結婚観
理想の恋人（白馬に乗った王子様 or お姫様）が現れると信じている	0.3420	0.3124	0.1123
最大の幸せは「結婚」だ	0.4633	0.3301	-0.1554
一生、ひとりの異性だけを愛し続けることは難しいと思う	-0.1282	-0.1928	0.3752
愛があれば貧乏生活も耐えられる	0.2301	-0.0060	-0.3741
結婚と恋愛は別だ	-0.1597	-0.1919	0.3654
運命の赤い糸を信じている	0.3959	0.3998	0.0464
条件がよければお見合い結婚でもよい	-0.0092	-0.0219	0.2302
彼女 or 彼氏には思いっきり甘えたい	0.4607	0.0132	0.0586
美人 or かっこよすぎる異性とは浮気が心配でつきあいたくない	-0.0452	0.3749	-0.0042
結婚する気のない異性とは本気でつきあえない	0.1296	0.3762	-0.0519
自分は理想が高いと思う	0.0823	0.0677	0.2987
男と女は結婚まで性的関係を持つべきではない	-0.1530	0.3915	-0.1025
恋人から高価なプレゼントをされると愛情が増す	0.3618	0.1198	0.2746
むかしから自分の「未来予想図」を持っている	0.4088	0.3232	0.0660
恋人から数日間連絡がないと心配で眠れない	0.4853	0.1241	-0.1060
友達との友情よりも恋人との恋愛が優先	0.4136	-0.1626	-0.2076
結婚したら相手に生涯愛される自信がある	0.4305	-0.0059	-0.0469
恋人が一度でも浮気をしたら絶対別れる	0.0144	0.2311	-0.0388
人前で恋人と平気でいちゃいちゃできる	0.4454	-0.2080	0.0064
経済力も男性の重要な魅力のひとつだと思う	0.1865	-0.0642	0.4642
固有値	1.9679	1.1424	0.9653
寄与率 (%)	9.84	5.71	4.83
累積寄与率 (%)	9.84	15.55	20.38

生活も耐えられる（マイナス値＝耐えられない）」「経済力も男性の重要な魅力のひとつだと思う」等の因子負荷量が高い値を示していることから，“現実的結婚観の因子”と解釈した。

4. 因子得点の分布

(1) 女子大学生と男子大学生の比較

女子大学生および男子大学生の恋愛と結婚に対する意識の各因子について因子得点を算出し、各被験者の因子得点の位置関係を検討した。第1因子と第2因子の分布図を図4に、第2因子と第3因子の分布図を図5に示す。

図4は、よこ軸が第1因子“恋愛依存の因子”，たて軸が第2因子“保守的恋愛観の因子”を示している。各因子のプラスとマイナスの組合せにより、被験者を4領域に分類することができる。

第1因子がプラス，第2因子がプラスの領域に分布している被験者は，恋愛に積極的であり，かつ保守的な考えを持っているといえる。この領域に属する被験者は多く，男子学生よりも女子学生の分布が目立つ。女性の方が堅実で将来を見据えた交際を望んでいるといえる。

第1因子がマイナス，第2因子がプラスの領域に分布している被験者は，恋愛には消極的で，

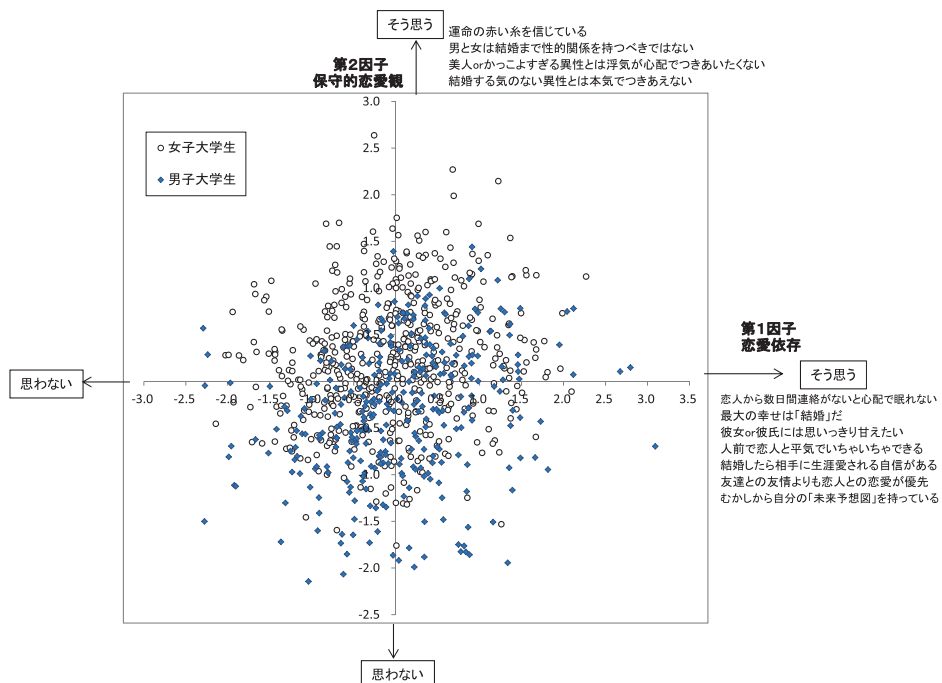


図4 因子得点の分布図 女子大学生と男子大学生の比較（第1因子と第2因子）

かつ保守的な考えを持っている学生である。この領域は男子学生の分布は少なく、ほとんどが女子学生である。恋愛自体に興味がないか、または男性との交際に苦手意識を持っている「恋愛未成熟型」と考えられる。

第1因子がプラス、第2因子がマイナスの領域に分布している被験者は少なく、特に女子学生は少数である。この領域に属する人は恋愛に積極的であり、進歩的な交際を好んでいるといえる。

第1因子、第2因子ともにマイナスの領域に分布している被験者は男子学生が多い。恋愛に対しては冷静で消極的だが、進歩的な交際を好んでいるといえる。

以上、女子大学生と男子大学生を比較した結果、女性の方が保守的であり、将来の結婚を想定した恋愛を望んでいるのに対して、男子学生は結婚とは無関係に発展的な恋愛関係を希望していることがわかった。

また、恋愛に積極的で進歩的な考えを持つ情熱的な被験者は男女とも少なく、現代の若者の恋愛に対する意欲の低下、無関心さが顕著に現れたといえる。

図5は、よこ軸が第2因子“保守的恋愛観の因子”、たて軸が第3因子“現実的結婚観の因子”を示している。

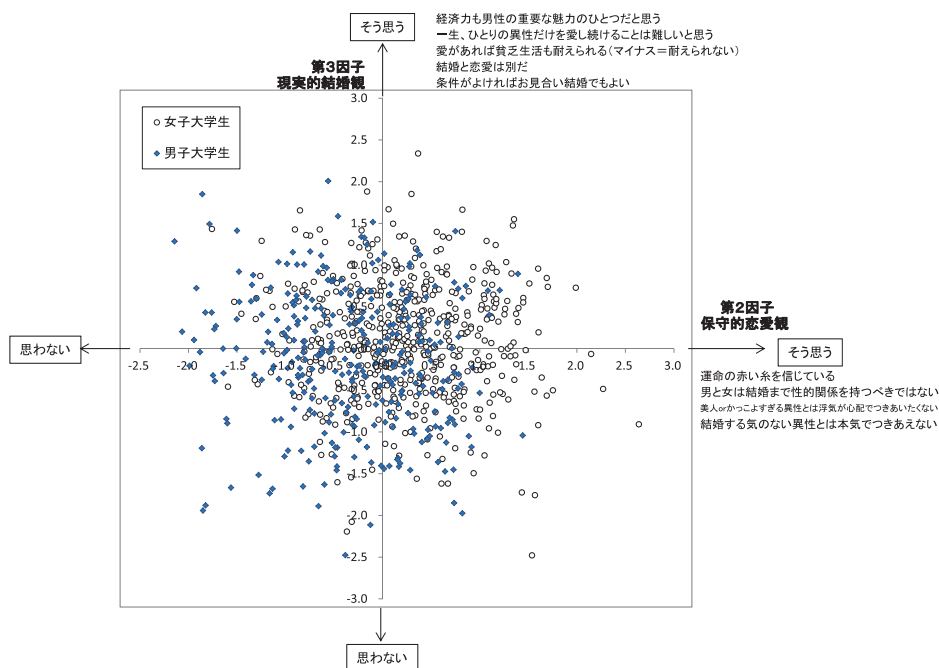


図5 因子得点の分布図 女子大学生と男子大学生の比較（第2因子と第3因子）

第2因子がプラス, 第3因子がプラスの領域に属している被験者は, 恋愛に対しては保守的であり, 結婚については現実的な考えを持っていることから, 彼らは非情に堅実で慎重であるといえる。すなわち, 結婚を前提とした交際を望み, また結婚の条件として経済力を重視している被験者である。この領域に分布している被験者はほとんどが女子学生であり, 男子学生は少ない。

第2因子がマイナス, 第3因子がプラスの領域に属している学生は, 恋愛には進歩的であるが, 結婚観は現実的であるといえる。すなわち, 恋愛においては結婚や貞操観念を関係づけることはないが, 条件が整わない結婚は望ましくないと思っている被験者である。この領域に分布している被験者は男女ともに多く, 彼らは恋愛と結婚を分けて考えていると思われる。

第2因子がプラス, 第3因子がマイナスの領域に分布している被験者数は多く, これらの学生は恋愛に対しては保守的であり, 結婚に対しては非現実的である。すなわち, 結婚を前提とした交際をするべきと考えており, 結婚するためには経済力よりも愛情を重視しているといえる。彼らは, 恋愛から結婚への自然な展開を希望しており, その結果幸福な家庭を築くことを当然としている。その傾向は男子学生よりも女子学生の方が強いことがわかる。

第2因子, 第3因子ともにマイナスの領域に分布している被験者は, 恋愛に対しては進歩的であり, 結婚に対しては非現実的な考えを持っているといえる。すなわち結婚を前提としない恋愛を希望しており, 結婚に対して男性の経済力や永遠の愛情は不要であると考えている。この領域に属する被験者のほとんどは男子学生であり, 自己中心的な恋愛観と現実逃避的な思考が強い層である。

以上のことから, 女子学生は恋愛の先に結婚を意識しているのに対して, 男子学生は結婚を前提としない状態での恋愛を望む傾向が強いことがわかった。

(2) 被験者のカテゴリー別比較

次に, 女性被験者を中学生, 高校生, 大学生, 主婦, 社会人(20代前半), 社会人(20代後半), 社会人(30代以上)の7つのカテゴリーに, 男性被験者を高校生, 大学生, 社会人(20代前半), 社会人(20代後半), 社会人(30代以上)の5つのカテゴリーに分け, 被験者の因子得点の平均を算出し, 図6, 図7の分布図に示した。

図6はよこ軸が第1因子, たて軸が第2因子を示しており, 男女被験者をカテゴリーごとにプロットしている。第1因子については, 主婦と男性社会人(30代以上)が高い値を示しており, 男性も既婚者が多い世代であることから, 自分の配偶者や家庭を重要だと意識しているといえる。その他のカテゴリーの被験者は第1因子は中央寄りに位置しており, 若年層と独身者の恋愛, 結婚に対しての関心の低さが伺える。

第2因子については, 女性被験者はプラス側に, 男性被験者はマイナス側に別れて分布して

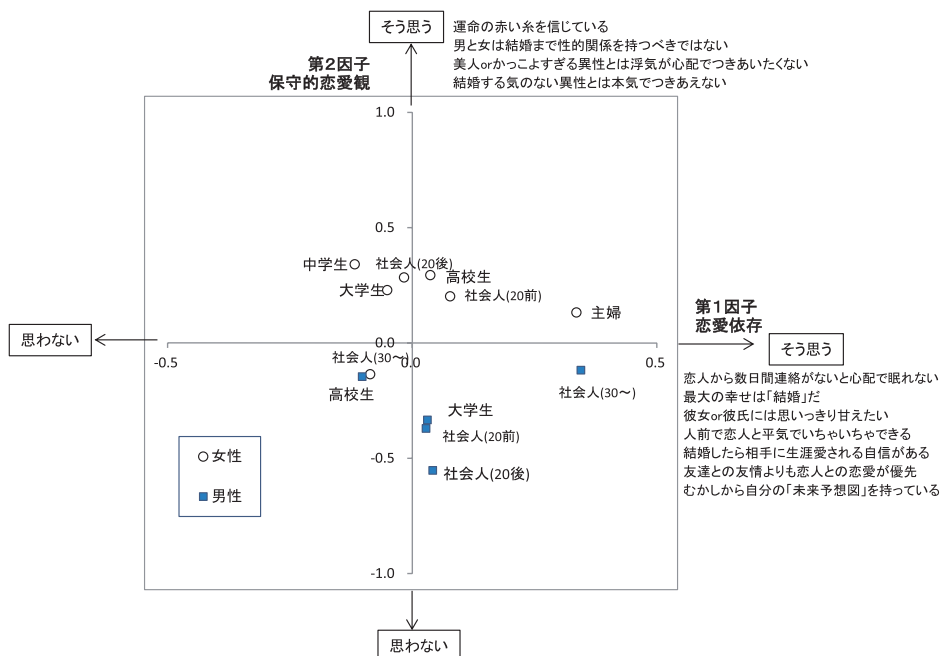


図6 因子得点の分布図 男女世代別カテゴリー比較（第1因子と第2因子）

いる。世代の違いに関わらず、女性は恋愛に保守的であり、男性は進歩的な考えを持っていることがわかる。ただし女性被験者の社会人（30代以上）だけがマイナスに位置しており、進歩的恋愛観を持っている。同じ世代の男性被験者（社会人）と比較しても、女性の方が恋愛依存因子が低い。これはキャリアを積みつつプライベートを充実させてきた世代の女性特有の価値観が現れたと思われる。

高校生を除く男性被験者はすべて、第1因子プラス、第2因子マイナスの領域に分布しており、恋愛には積極的であり、かつ進歩的な恋愛観を持っていることがわかる。すなわち恋愛をしたいという意欲はあるが、運命的な出会いや誠実な相手を求めているわけではなく、結婚前提ではない自由恋愛志向であるといえる。

図7はよこ軸が第2因子、たて軸が第3因子を示している。主婦と社会人女性（20代後半）は第3因子が特に高い値を示しており、現実的結婚観が強いことがわかる。主婦は実生活で婚姻状態であることが要因であると思われるが、20代後半女性の場合は、同じ社会人カテゴリーの20代前半、30代以上の被験者と比較して相当高い値を示している。これは20歳代後半の女性は日本では「結婚適齢期」とされており、被験者が結婚を強く意識し、結婚を現実として考えていることが要因ではないかと推察する。

女子中学生と女子高校生は第2因子がプラスで第3因子がマイナスの領域に分布している。彼女等のような若年齢の女性の場合、経済力等の条件よりも誠実さや愛情の強さを重視する恋愛観・結婚観を強く持っていることがわかる。同じ高校生であっても男子高校生の場合は、第2因子がマイナスになることから、貞操観念は低くなる傾向が見られる。女性被験者の場合、中高生は純愛志向傾向が強いが、大学生以上の世代は全て第3因子がプラスになり、打算的な結婚観が強くなることがわかる。

社会人(30代以上)を除く他のカテゴリーの男性被験者は、第2因子、第3因子ともにマイナスの領域に分布している。20歳代以下の若い男性は、結婚制度に縛られない進歩的で自由な恋愛を好み、結婚は経済力等の条件ではなく、純粋な相互の愛情によって永遠に維持されるべきであると考えている。同じ世代の男女を比較すると、大学生、社会人(20代前半/20代後半)の女性と男性は対照的な(正反対の)位置に分布している。このことから、女性は理性的でかつ打算的な恋愛観を持つのに対して、男性は本能的で純粋(どちらかというとも盲目的)な恋愛観を持っており、男性の方がロマンチストである傾向が強いといえる。

ただし、30代以上になると、女性も男性も第2因子マイナス、第3因子プラスの同じ領域に分布しており、割り切った妥協的な恋愛観に変化することで、同じ価値観を共有することがで

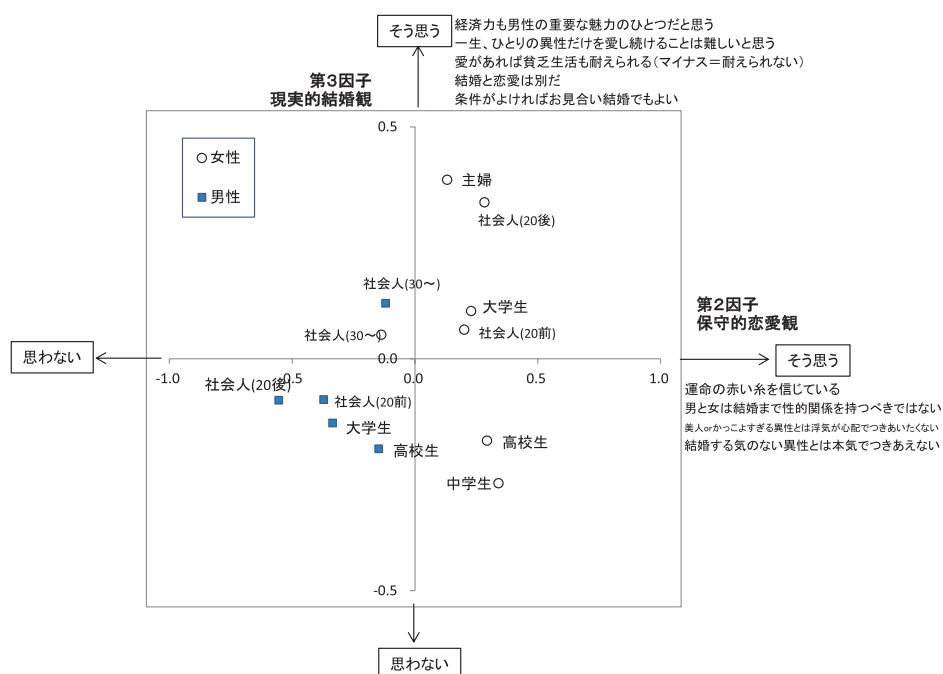


図7 因子得点の分布図 男女世代別カテゴリー比較(第2因子と第3因子)

きるようになったのではないだろうか。

ま と め

異なる世代の女性と男性を対象に、恋愛と結婚に対する意識調査アンケート調査を行い、性別と世代における意識の違いを考察した。

1. 男女の恋愛と結婚の意識についての官能評価プロフィールにより以下のことが明かとなった。
 - (1) 女性よりも男性の方が貞操観念が低く、また女性は男性に経済力を期待しており、男性も期待されていることを自覚している。
 - (2) 女性は年齢が高い被験者ほど結婚の条件を重視する傾向が強く、30歳代以上のキャリアウーマンは他の世代に比べて「未来予想図」を持っておらず、現実思考が強い。
2. 意識項目間の単相関係数より以下のことが明かとなった。
 - (1) 交際相手の条件に妥協をしたくない女性は、男性に対して自分への忠誠心や愛情表現を求めている。
 - (2) 結婚に幸せを求める人の場合、女性はお見合いではなく恋愛結婚を望んでおり、男性は相手の容姿よりも貞操観念の強さを重視している。
 - (3) 永遠の愛を信じない人の場合、女性は恋人の誠実さよりも物質的な提供が愛情の目安であり、男性は本気で恋愛をする欲求が低い。
 - (4) 「お金よりも愛情」という考え方を持つ女性は、男性に高望みをしていないことを自覚している。
 - (5) 「結婚と恋愛は別」と考える女性は、男性の条件を重視しており、愛情の深さよりも安定した結婚生活を継続できるかどうかを重視している。
 - (6) 恋人の浮気を心配する人の場合、女性は自分が男性から愛される自信がなく、男性は経済力以外の面で評価してもらいたいと思っている。
 - (7) 「未来予想図」を持っている人の場合、女性は男性への愛情表現が豊かであり、男性は外での付き合いよりも、恋人や家族を優先したいと考えており、結婚に対しての憧れの強さが伺える。
3. 恋愛と結婚に対する意識調査について因子分析を行った結果、“恋愛依存の因子”“保守的恋愛観の因子”“現実的結婚観の因子”の3因子が抽出された。
4. 因子得点の分布図より、男女、世代による意識を比較した結果以下のことが明かになった。

- (1) 男女大学生の意識を比較した結果, 女子学生は恋愛の先に結婚を意識しているのに対して, 男子学生は結婚を前提としない状態での恋愛を望む傾向が強い。
- (2) 主婦と30代以上の男性社会人といった既婚者が多い世代は, 配偶者や家庭を重要だと意識しているが, 若年層と独身者の被験者については, 恋愛, 結婚に対しての関心の低さが伺える。
- (3) 世代の違いに関わらず, 女性は恋愛に保守的であり, 高校生以外の男性被験者は, 恋愛には積極的であり, かつ進歩的な恋愛観を持っており, 結婚前提ではない自由恋愛志向が強い。
- (4) 20代後半の女性被験者は現実的結婚観因子が強いが, これは20歳代後半の女性が“結婚適齢期”であるため, 被験者が結婚を現実として強く意識していることが要因だと思われる。
- (5) 女子中高生のような若年齢の被験者の場合, 経済力等の条件よりも誠実さや愛情の強さを重視する傾向があるのに対して, 大学生以上の世代の女性は打算的な結婚観が強くなる。
- (6) 20歳代以下の若い男性は, 結婚制度に縛られない進歩的で自由な恋愛を好んでいる。また, 大学生と20代社会人の男女を比較すると, 女性は理性的でかつ打算的な恋愛観を持つのに対して, 男性は本能的で純粋な恋愛観を持っており, 男性の方がロマンチストである傾向が強い。

おわりに, アンケートにご協力いただいた皆様へお礼を申し上げます。

文 献

- 三木幹子, 植木由香, 「女子大学生と女子高校生の恋愛観・結婚観とジェンダー意識との関係」, 広島女学院大学論集, 第60集, 2010年12月, pp. 95-109
- 三木幹子, 「女子大生のメンズファッションに対する意識と着用実態 (第1報) —パンツ・スタイル画像の視覚評価—」, 広島女学院大学論集, 第56集, 2006年12月, pp. 97-108
- 三木幹子, 「女子大生のメンズファッションに対する意識と着用実態 (第2報) —パンツ・スタイルのイメージとジェンダー意識の関係—」, 広島女学院大学生生活科学部紀要, 第14号, 2007年3月, pp. 1-14
- 『女性の暮らしと生活意識データ集2011』, 三冬社, 2010年
- 山田昌弘, 白河桃子, 『「婚活」時代』, ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2008年
- 森岡正博, 『草食系男子の恋愛学』, メディアファクトリー, 2008年
- 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>
- 国立社会保障・人口問題研究所 <http://www.ipss.go.jp/>